

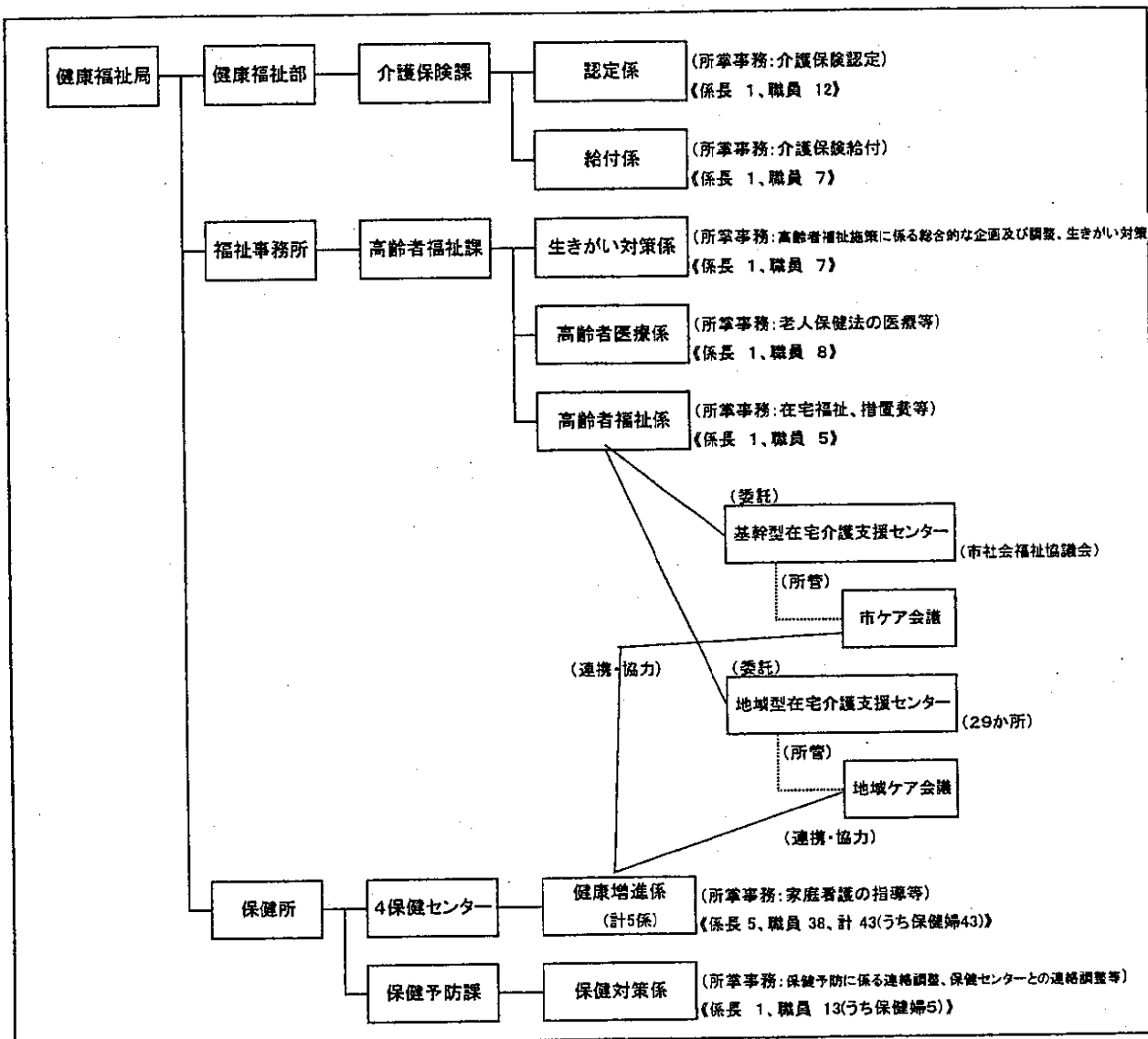
事例 32 鹿児島県鹿児島市

人 口	548,624 人
高齡者数	90,356 人
高齡化率	16.47%
担当部署	健康福祉局保健所保健予防課

1. 市町村の概況

市町村の沿革概要	<p>本市は、九州の南端鹿児島県本土のほぼ中央部にあって、東は鹿児島湾に面し、海を隔てた桜島の東半分を含んだ東西約27km、南北約30kmの風向明媚な都市である。</p> <p>明治4年、廃藩置県とともに県庁の所在地となり、同22年4月には市制が施行された。第二次世界大戦の戦火で市街地の9割を消失したが、将来の躍進に備える礎がつくられ、戦後は観光・商工業の発展とともに市域は次第に拡大し、昭和42年4月29日には隣接の谷山市と合併して人口38万人の新鹿児島市が誕生、昭和55年7月には人口50万人を突破した。</p> <p>平成8年4月の中核市への移行を契機に、よりきめ細かな市民サービスの提供と個性豊かな魅力あふれるまちづくりを積極的に進め、平成12年4月スタートした介護保険制度や地方分権一括法の施行に伴い、地方分権の時代に対応した生きがいを実感できる地域社会づくりの推進に全力を傾注している。</p> <p>現在、人口55万人、県都として、また南九州の拠点中核都市として発展を続けている。</p>									
人口	548,624人 (H13.9.30)			高齢者数 (高齢化率)		90,356人 (16.47%)				
世帯数	65歳未満の者のみの世帯			65歳以上の者のいる世帯						
	(資料なし)			単独世帯	65歳以上夫婦のみの世帯			その他		
				(資料なし)	(資料なし)			(資料なし)		
要介護認定(申請)者数	申請中	非該当	要支援	要介護1	2	3	4	5	合計	
	1,772	1,403	2,766	4,513	2,290	1,537	1,715	1,693	17,689	
社会資源状況	指定居宅サービス事業所 (か所数)			訪問看護 (494) ※	訪問介護 (56)	通所介護 (26)				
				通所リハ (65)	短期入所系 (100)	その他 (1,481) ※				
				※ みなし指定を含む						
				13年10月末現在						
指定居宅介護支援事業所 (か所数)			110か所							
			13年10月末現在							
保健センター 在宅介護支援センター (か所数)			4か所 31か所							
			13年10月末現在							
			※保健福祉センターなど、保健・福祉が一体となった施設があれば、記入して下さい。							
介護予防事業の拠点となりうる場 (か所数) (公的施設以外も含む)			お達者クラブ 129か所							
			13年10月末現在							
介護予防事業の担い手 (組織・団体数・人員数)			<ul style="list-style-type: none"> ・保健所保健センター ・健康づくり推進員協議会 (推進員数 268人) ・基幹型在宅介護支援センター ・市ケア会議 ・地域ケア会議 ・地域型在宅介護支援センター 							
			13年10月末現在							

2. 市町村の高齢者保健福祉行政の組織図



3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)する事業がありましたか?</p>	<p>(○) 関連(類似)事業があった。→問2～問4へ () 関連(類似)事業はなかった →問5へ</p>
<p>(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか? また、その事業内容についてもご記入下さい。 既存資料で、事業内容等わかるものがあれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業実施の根拠(国庫補助事業、 県単独助成事業)、 所管部局、 事業内容(事業名、事業目的、 対象者、実施回数、スタッフ等)</p> <p>基本型機能訓練(A型)、地域参加型機能訓練(B型)として老人保健事業で実施していた。 地域参加型機能訓練(B型)については、平成10年度から3か所で実施していた。</p>
<p>(問3) 上記事業の効果測定(評価)を行いましたか?</p>	<p>() 行った (○) 行っていない (具体的方法)</p>

3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問4) 従来の事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記の様な点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心となった部局はどこか？ ・何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか？ 	<p>従来から、老人保健の保健事業である「地域参加型機能訓練(B型)」を3か所で実施していた。</p> <p>また、12年度からの介護保険制度の実施に伴い、福祉施策として行っていたデイサービス等が介護保険に移行することとなったため、従来のサービスを受けられない人がでることとなった。</p> <p>このため、保健所と高齢者福祉担当課で協議を行い、介護保険サービスの対象外となる人の活動の場や、また、介護保険の要介護・要支援状態にならないような健康づくりの場が地域に必要と考え、従来の地域参加型機能訓練を変更・拡充し、通称名を「お達者クラブ」として、保健所保健センター健康増進係の保健婦を中心として、実施することとした。</p>
<p>(問5) (問1)で、関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。</p> <p>今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか？</p>	

4. 「介護予防事業」の企画立案体制について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか？ ・学識経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか？ ・高齢者やその家族、地域住民等の参加する機会があったのか？ ・どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制は、どうであったのか？ 	<p>平成11年度に保健予防課健康指導係で、介護予防事業の三つの柱として、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①痴呆予防（講演会地域教室）事業 ②健康づくり推進員養成事業 ③地域参加型機能訓練（お達者クラブ）事業 <p>の3事業を企画し、12～14年度の3か年を重点的に取り組む期間と定めた。</p> <p>企画立案にあたっては、特に、関係団体からの意見及び保健婦が健康教室で関わっている地域団体や町内会等の意見を参考にするとともに、高齢者福祉課とも協議を行った。</p> <p>高齢者福祉課とは、「生きがいデイサービス事業」や「ふれあい会食事業」との関連について協議した。このうち、「生きがいデイサービス事業」の実施について、地域参加型機能訓練（お達者クラブ）の設置状況（設置目標 180か所）をみながら検討していくこと、また、「ふれあい会食事業」との併設が可能となるように対象者の再検討を行うことなど、協力体制についても協議した。</p>
<p>(問2) 「介護予防事業」を企画する際、下記のような検討事項があったと思います。 貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <p>(検討事項例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズをどのように把握するか？ (ニーズ把握の方法) ・事業対象者の選定方法はどうか？ ・事業に従事する人材をどのように確保するか？ ・既存の設備の利用が可能か？ ・新たな設備整備が必要か？ ・どの部局の事業予算をどのように確保するか？ 	<p>(ニーズの把握) 第二次高齢者保健福祉計画の実態調査（平成10年度実施）をもとに、必要量の把握を行った。</p> <p>(対象者の選定) 対象者は、老人保健事業として実施することから40歳以上とし、原則として介護保険等のサービスを受けることができない人とした。</p> <p>(人材の確保) 地域参加型機能訓練（B型）については、国の実施要領に住民の身近な場所で、住民ボランティアの参加のもとで実施すると示されていることから、ボランティア（健康づくり推進員）を養成し、運営を主体的に行ってもらおうこととした。</p> <p>健康づくり推進員（別紙要領参照）は、機能訓練B型を設置する予定の地域から推薦を受けた者で、民生委員、食生活改善推進員及び運動普及推進員と重複していない者とした。</p> <p>(設備の利用) 町内会の公民館等を利用して実施することとし、町内会に加入していない機能訓練の対象者も利用できるように、必要などころには会場費を支給し、実施した。</p> <p>(事業予算) 地域参加型機能訓練（お達者クラブ）については、12年度に老人保健法の保健事業として事業を拡充し、また、ボランティアである健康づくり推進員の養成については、地域保健関係職員等事業として事業を開始した。 13年度からは、両事業とも介護予防生活支援事業として国の補助を受ける予定で、事業を実施している。</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について記入して下さい。</p> <p>※事業の実施要綱、事業概要があれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業名、事業目的、対象者、事業内容、開始時期、実施回数(週、月)、実施体制(スタッフ、研修)、事業予算・補助金、事業所管課、他課との連携(協力)体制 等</p> <p>別紙①のとおり</p> <p>お達者クラブについて、別紙①及び要領に記載のないその他の事項は次のとおりである。</p> <p>(開始時期) 平成12年4月から地域参加型機能訓練を拡充 通称名：お達者クラブ (3か所(10年4月)→180か所(14年度目標))</p> <p>(実施回数) 1回あたり2時間×12か月×180か所(14年度)</p> <p>(実施体制) (スタッフ) ・保健センター保健婦(年3回(16年度以降)) ・機能訓練指導員(雇用保健婦・看護婦) ・ボランティア(健康づくり推進員、民生委員、町内会、老人会等) (連絡会) 健康づくり推進員が年4回、連絡会及び研修を実施</p> <p>(補助金)、介護予防生活支援事業補助金(予定)</p>
<p>(問2) 住民に対して、どのように事業を周知しましたか？</p> <p>※周知するための広報資料の現物の写しなどがあれば添付して下さい。</p>	<p>① 地区民生委員児童委員協議会、市老人クラブ連合会、市衛生自治団体連合会等の団体への説明会の開催</p> <p>② 地区担当保健婦による町内会、校区単位での説明会の開催や各地区組織役員等への周知、</p> <p>③ 健康教育など保健事業実施時の広報</p> <p>④ 市広報紙等による周知 など</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問3) 「介護予防事業」の実施状況（実績）について記入して下さい。</p> <p>貴市町村での実施状況（実績）をまとめた資料があれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業名、事業費 年間実施回数 年間利用者数（実人数、延べ人数）</p> <p>※1年未満の事業の実施回数、利用者数については、実施期間内での実績を記入して下さい。</p> <p>別紙②のとおり</p>
<p>(問4) 現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<p>※ 以下「お達者クラブ」について記載</p> <p>「住民主体の取り組み」</p> <p>住民ボランティアを参加させ、運営に関わっていけるような住民主体の体制ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域参加型機能訓練（お達者クラブ）を立ち上げるにあたって、地域の高齢者が元気で過ごすためにという観点から地区の住民と話し合いをもった。 <p>この話し合いの中で、地域が主体となって、健康づくり推進員の推薦、対象者への呼びかけやお達者クラブの運営のやり方を決めてもらうように働きかけ、その後、立ち上げに至らせるという経過をとることとした。</p> <p>これにより、地域の達成感が得られたこと及び今後の運営について住民との協働に確信を持てたことは、地域保健活動の大きな力になっている。</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	
<p>(問5) うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入して下さい。</p>	<p>「地区組織や各団体との連絡・調整」</p> <p>お達者クラブを立ち上げる予定の地区の住民から推薦してもらった住民を健康づくり推進員として養成し、ボランティアとしてお達者クラブの運営に関わってもらう。</p> <p>健康づくり推進員は、協議会を結成（別紙要領のとおり）して資質の向上に努め、また、お達者クラブの講師を地域住民に依頼するなどお達者クラブの主体的な運営に努めている。</p> <p>なお、お達者クラブの講師を地域住民に依頼することは、講師を努めた住民の生きがいがづくりにもつながっている。</p>
<p>(問6) 今後、課題と感じている点があれば、それについても記入して下さい。</p>	<p>「住民主体の運営の推進」</p> <p>現在、保健センターの職員等が、お達者クラブの会場に出向いて運営の支援を行っているが、立ち上げ後2か年を目安に、住民が自主的に運営を行えるような体制づくりが必要である。</p> <p>このことは、住民も十分認識しているが、どの程度の保健婦等の支援で自主的な運営が行えるかが課題である。</p>
<p>(問7) 現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等あれば記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ お達者クラブの運営を行政やボランティアだけではなく、地域全体で行えるような体制づくりの推進については、保健婦等が、お達者クラブの立ち上げ時や運営の支援時などの機会をとらえ、民生委員や町内会役員等の地域住民へ周知を図るなどしている。 ・ 現在、お達者クラブの運営に必要な物品・材料等は、職員の保健婦が運営を支援する際に現物を届けているが、今後、自主的な運営となり職員が支援に出向くことがなくなることから、活動費を一律に支給することを検討中である。

6. 「介護予防事業」の評価について

※行政が主体となって実施する（直轄・委託）保健・福祉事業に対する評価について伺います。

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「事業ごとの評価」について伺います。</p> <p>①各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p>	<p>(○) 行っている。→②へ</p> <p>() 行っていない。</p>
<p>②具体的な評価方法について記入して下さい。 (評価指標、評価時期、評価者等)</p> <p>※「事業ごとの評価」を行っている評価の資料があれば、添付して下さい。</p>	<p>別紙③参照</p> <p>(評価指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の介護予防効果（閉じこもり、痴呆予防など） ・住民の参画状況
<p>(問2) 「介護予防事業全体の評価」について伺います。</p> <p>①介護予防事業全体としての費用対効果をどのように評価していますか？ また、今後どのように評価したいと考えますか？</p>	<p>「検討中」</p> <p>高齢者医療費等との関連や受診回数・受診機関などを基に、対象者の状況把握をし、今後の検討指標にしていきたい。</p>
<p>②各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などがあれば記入して下さい。</p>	

5. 「介護予防事業」の実施について

(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について

(1) 事業名 : 介護予防のための訓練事業 (地域参加型機能訓練)

事業目的 : 高齢者等の介護予防と共助の心が育つ地域づくりの推進

対象者 : 心身の機能が低下している高齢者等

事業内容 : 教養講座、創作活動、日常生活動作訓練等

開始時期 : 平成10年度 (平成12年度から拡充)

実施回数 : 実施箇所毎に月2回以上

実施体制 : 地区担当保健婦、機能訓練指導員、健康づくり推進員及び地区のボランティア等

事業予算 : 22,904千円

事業所管 : 保健所保健予防課

他課との連携体制 : 高齢者福祉課及び介護保険課

(2) 事業名 : いきいき80健康づくり事業 (運動による健康づくり講座)

事業目的 : 運動・栄養に焦点をあて、個人の主体的な健康づくりを支援する。

対象者 : 受講を希望する市民

事業内容 : メディカルチェック、健康づくりのための運動及び栄養の指導、有酸素運動を中心とした運動の実技

開始時期 : 平成2年度 (平成12年度から実施方法を変更)

実施回数 : 1コース14回の講座を2回、1コース8回の講座を2回

実施体制 : 医師、管理栄養士、保健婦、運動指導士等

事業予算 : 2,146千円

事業所管 : 保健所保健予防課

他課との連携体制 : 特になし

(3) 事業名 : 健康づくり推進員養成事業

事業目的 : 介護予防と共助の心が育つ地域づくりの推進及び保健事業の普及啓発

対象者 : 地域団体の推薦を受け、虚弱者等の介護予防活動を希望する市民

事業内容 : 養成講座、健康づくり推進員協議会支援

開始時期 : 平成12年度

実施回数 : 1コース8回の講座を1回、研修会・連絡会を18回

実施体制 : 医師、保健婦、健康づくり関連講師等

事業予算 : 2,416千円

事業所管 : 保健所保健予防課

他課との連携体制 : 社会福祉協議会

- (4) 事業名 :ヘルスアップ教育事業(痴呆予防講演会・地域痴呆予防教室)
- 事業目的:生活習慣病の予防、健康増進、介護予防など健康に関する正しい知識の普及を図るとともに市民が生涯を通じた健康づくりができるよう支援する。
- 対象者 :受講を希望する市民
- 事業内容:痴呆予防講演会、地域の公民館等で痴呆の予防方法についての健康教育
- 開始時期:昭和58年度(平成12年度から痴呆予防の取り組みを追加)
- 実施回数:講演会1回、地域痴呆予防教室を775回
- 実施体制:講師、保健婦
- 事業予算:3,206千円
- 事業所管:保健所保健予防課
- 他課との連携体制:特になし

5. 「介護予防事業」の実施について

(問3) 「介護予防事業」の実施状況について【平成12年度実績を記載】

(1) 事業名：介護予防のための訓練事業（地域参加型機能訓練）

事業費：10,001千円

年間実施回数：68箇所、890回

年間利用者数（実人数）：1,970人

（延人数）：13,526人

(2) 事業名：いきいき80健康づくり事業（運動による健康づくり講座）

事業費：2,293千円

年間実施回数：44回

年間利用者数（実人数）：135人

（延人数）：888人

(3) 事業名：健康づくり推進員養成事業

事業費：1,435千円

年間実施回数、年間利用者数：養成講座1コース8回、実96人

研修会・連絡会13回、延396人

(4) 事業名：ヘルスアップ教育事業（痴呆予防講演会・地域痴呆予防教室）

事業費：2,999千円

年間利用者数：痴呆予防講演会 1回 2,100人

地域痴呆予防教室 635回 15,488人

介護予防のための訓練事業（評価計画）

1 目的

高齢者の介護予防と共助の心が育つ地域づくりを推進するために実施している地域参加型機能訓練（通称：お達者クラブ）の利用者に対し、お達者クラブに参加してからの状況を、1）閉じこもり予防、2）痴呆予防、3）転倒予防、4）QOL、などの介護予防における視点で経年的に比較することから、参加者の特徴を明らかにするとともに、事業評価として効果の一端を明らかにし、この事業の効果的な推進を図る。

2 実施年度

平成12年度～（1年後の比較）

3 対象者

お達者クラブ参加者

4 従事者

機能訓練指導員（必要に応じ、常勤保健婦）が聞き取りにより行う。

5 評価の内容と方法

(1) 評価表の種類

- ・ 生活すこやか度チェック
- ・ ヘルスアセスメント 生活機能問診票（B票）
- ・ 出席簿、実績報告書

(2) 評価の項目について

① 生活すこやか度チェック（聞きとりによる）

お達者クラブへの参加により、変化をみたい項目については5段階で評価する。

	基本情報	氏名、年齢、性別、家族構成、参加団体名を記入
閉じこもり予防	活動範囲	行動範囲の変化をみる
	人との会話 誰と話すか	1日の中で会話した人数。（家族を含む。） 会話の相手について、家族か家族外かを記入。家族外については具体的に記入。
	外出の頻度1	食事の買い物、通院など日常生活を送る上において必要な外出（自己完結型）の回数をみる
	外出の頻度2	友人との交流、趣味の会への参加、地域活動への参加等、社会生活面での外出（交流型）の回数をみる
	外出の環境	閉じこもりの要因となる諸条件の把握
QOL	楽しみ	楽しみの有無とその内容について把握。内容については、家庭内と家庭外に分類して聞き取ることで、交流範囲までみる。
	毎日の気持ち	本人の主観的な情報でよい。
	自分の健康感	本人の主観的な情報でよい。
	この会は	お達者クラブに対する感想について、本人の主観的な情報でよい。
転倒予防	運動の頻度	転倒予防との関連から聞き取る。運動は屋内、屋外を問わない。
	歩行	閉じこもりの要因の一つである。ADLの中でも歩行の状況を詳しく把握

生活すこやか度 チェック (

お達者クラブ)

【氏名】		_____ 歳	(男・女)	家族構成 (同居・昼間独居・独居)	
参加手段	①徒歩(杖・柺杖) ②バス・電車 ③送ってもらう(含タクシー) ④自分で運転(車・軽・電動)				
項目	5	4	3	2	1
活動範囲	遠出する	近所まで	庭程度	家のなか	自分の部屋だけ
人との会話	6人以上/日	4~5人/日	2~3人/日	1人/日	0人/日
誰と話すか	1. 家族		2. 家族外 ()		
外出の頻度1	毎日	週4~5日	週2~3日	週1回	ほとんど無い
外出の頻度2	毎日	週4~5日	週2~3日	週1回	ほとんど無い
外出の環境	外出しやすい	何とか外出できる	まあまあ	外出しづらい	外出できない
	1. 坂がある 2. 交通量が多い 3. 階段がある 4. 転ぶのが怖い 5. 歩行が不自由 6. 尿失禁のため不安 7. その他				
楽しみ	あり 家庭内で (1. テレビ 2. 家事 3. 趣味芸術 4. 運動 5. その他) 家庭の外で (6. 友人との交流 7. 文化活動 8. スポーツ 9. 地域活動 10. その他)				なし
毎日の気持ち		いつも充実・楽しい	だいたい充実	あまり楽しくない	つまらない
自分の健康感		非常に健康だと誇	まあ健康と思う	あまり健康ではない	健康ではない
この会は		大変楽しい・充実 (楽しい内容は~	楽しい	つきあい・仕方なく	つまらない・嫌だ
運動の頻度	ほぼ毎日している	1日おき位	週に1~2回	2~3週間に1回	全くしていない
歩行	自力で歩く、急ぎ足もできる	普通に支障なく歩ける	休み休みなら自力で歩ける	杖、手押し車などで歩く	一部介護が必要
介護保険の申請 (有・無) 介護度は (自立・要支援・I・II・III・IV・V)		既 現 往 症 歴	高血圧・脳卒中・心疾患 腰痛・膝関節痛・骨粗鬆症・骨折 つまづきやすい・転倒したことがある 尿もれ(いつ頃から) 耳鼻科疾患・眼科 その他()		
ADL 自立度	0・J1・J2・A1・A2 その他()				
気になること・自分の中での変化等 (自由記入)		社会サービス		病院受診頻度 (回/週・月) 病院受診内容 病名; 病院名; 病名; 病院名; 病名; 病院名;	
住民検診受診	あり (年 月) ・ なし		記録日	年 月 日	